

第十二回 忠順大賞

(平成二十

九年度)

入賞作品

・応募総数 一七三五首
・久米翠雲先生 選評

小学生の部

豊田市長賞

堤小六年 原田 泰正

家の中暖房つけて母を待つ

部屋のぬくもり心の寒さ

※学校から帰り、ただいまと言いが、

まだ母は帰っていない。暖房を付

けて待つ。身体は温まったが、心

は寂しいまま。

豊田市教育委員会賞

堤小二年 小田 昇平

会いたいよ 天しになった弟に

天までとどけ かぞくの思い

※天使となって、逝ってしまった

弟に会いたいという切実な思いが強く伝わる。ぼくだけでなく家族みんな思っているよ!

会長賞 銅賞

駒場小二年 伊藤 大葵

青空によいしょの声がひびくとき

もちとはねるよ ぼくの前がみ

※きねを使ってお餅つき、おばあちゃん家。みんながよいしょとかけ声で応援してくれる。きねもぼくの前がみもとびはねる

ぼくもドキドキそぼもドキドキ

※ぼく、一人でおばあちゃん家に行く。冬休みに初めて飛行機に乗った、ドキドキ。おばあちゃんもドキドキしながら待ってたって。

堤小二年 石川 桃佳

大すきなみかん とうとうあと一つ

お姉ちゃんと半分こしよ

※かごもりのみかん。お姉ちゃんと二人で、テレビを見ながら食べた。あと一つになってしまった。半分こした、いいねえ。

堤小五年 石川 真捺

雪ふった 上からぼとり落ちてきた

積もった雪に手がたを二つ

※お母さんがある朝、まなちゃん雪、雪よ。庭に出てみるとぼとりぼとりと降り積もった真っ白な雪。手形を二つ。きれい。

堤小二年 神谷 さな

おいかけたけど もうすぐ一人

※入学してから今まで、姉のあとを

けんめいに追っていたけど、もう

すぐ二年生。一人できちんと歩け

るよ。ありがとうお姉ちゃん。

会長賞 銀賞

堤小六年 川上 莉穂

何度目だ毎年こうれい もちつきが

もう手伝いは任せてください

※六年生になった私。今まで何度餅

つきの手伝いをしてきたことか。

自信と思いやりの心がつよく伝わ

ります。

さむい朝おみそしる食べあたたまる

気もちがほっとなごんでくるね

※おみそ汁大好きだよ。とくに冬の寒い朝のおみそ汁は身体も心も温まるんだ。気持ちまでなごんでくるよ。今日も元気になる。

私の中の幸せタイム

※ふつうに話す毎日を幸せと感じることのできる薬師寺さんは本当に幸せですね。毎日を大切にしたいものです。

市議会議長賞

会長賞 金賞

前林中一年 安田 佳穂

弾き始め静まる舞台 あせ流れ

中学・一般の部

豊田市長賞

前林中二年 原田 らら

背比べ大きく見えた母の背が

抜かして越して小さく見えた

※小学校の頃母とよく背比べをした。母は大きくどっしりしていた。中学生になって私は急に大きくなった。大人になったよう。

指先見つめ広がる音色

※演奏会、会場は静まり返る。緊張の一瞬、冷汗が流れる。大きく深呼吸して指に心を集中。音色が会場に広がる。

会長賞 銀賞

前林中三年 川村 空

夕日さし二人並んだ影を見て

まだ超えられぬ母との差

※買い物帰り道、久しぶりに母と二人。夕日が長い影をつくる。まだまだ自分が身体的にも精神的にも子供のように見えた。

会長賞 銅賞

青木町 奥村 良枝

福寿草ふっくらと咲く絵手紙の

添え書き“認知症の母の介護”と

※認知症の母の介護をしている友。

介護の合間に素敵な福寿草の絵はがきを、私に送ってくれた。何と励ましたらいいか。

中日新聞社賞

前林中一年 田口 愛穂

文化祭 心を一つに頑張った

みんなの笑顔は最優秀

※文化祭の合唱は学級の皆の気持ち一つにまとまった。とにかく歌い切った。それで笑顔がこぼれたのだ。最高だ、よかった。

優秀賞（四名）

前林中二年 富田 桃花

おばあちゃん耳が遠くて聞こえない？

それでも韓ドラ見て胸キュン

※おばあちゃんは耳が遠い。会話もスムーズにいかない。でも韓ドラは音質が合うんだね。よかったね。

前林中二年 新屋 元夢

じいちゃんが入院してもばあちゃん

いつもお見舞い仲よし夫婦

※じいちゃんは入院している、ばあちゃんは毎日見舞いに行く。ほんとにすごいなあと思う。心がホカホカしてくるね。

駒場町 手嶋 容子

赤色の可愛い新芽 梅の花

小さい頃のあなたのような

※ほら見あげてごらん。梅の花があるな。ふっくりとふくらんでいる。赤い梅の花だよ。可愛いあなた達の赤ちゃんの時を思い出す。

豊田市教育委員会賞

前林中二年 薬師寺 千裕

学校でふつうに話す毎日が

前林中二年 前田 柊翔

お父さん自慢ばかり うるさいよ

だけどそこには伝わることあり

※お父さんはご機嫌の時にいつも、
若い頃はこんな事もあってこうし
たんだなど。うるさいよ、でも、
胸に伝わるんだよなあ。

無審査

前林町 甲村サカエ

泣き笑ふ曾孫が主役 四世代

屠蘇の座に早 寝返りを打つ

同大変感謝しております。

二月二日事務局での一次審査を経
て久米翠雲先生による最終審査によ
り二十一名の方が入選されました。

審査をさせていただくこと、責任
ある身の引き締まる作業です。日々
の生活の中の何でもない出来事を、
三十一文字に気持ちを込め歌をつく
ることは、特に小学生の方には難し
いことと思いますが、今年も、たく
さんの作品に出合うことができ大変
嬉しく思います

応募して下さった大勢の方々、授
業、行事等で大変お忙しい中、毎年
指導、協力して頂いています小、中
学校の先生方に感謝いたします。

事務局 川村

※赤ん坊は泣いたり笑ったりが命の
証。周囲の皆に幸せを運ぶ。元旦
のお屠蘇の席に寝返りをうつ曾孫
は、何よりの年賀。

「忠順大賞」も回を重ねること十二
回目となりました。千七百三十五首
の作品を頂くことができ、事務局一